

内部評価の結果

【評価結果】

事業を実施すべき

【評価理由】

門司消防署は、昭和37年の開署以来、火災や救急をはじめ、台風や高潮などの自然災害等、様々な災害に対処し、門司区の災害対応拠点として、市民の安全安心の確保に重要な役割を果たしてきた。

しかし、庁舎は建築から53年が経過しており、柱や梁、外壁に亀裂が入り、雨漏りもあるなど老朽化が著しく、平成24年に行った耐震診断では、耐震性能不足と判定された。

庁舎内は狭く、職員のロッカーが会議室や廊下に配置され、執務スペースも全く余裕がない状況である。また、仮眠室は個室化されておらず、女性職員を交替制勤務に従事させることができない。

車庫については大型化した現代の消防車両に対応できていないため、一部の消防車両は道路を挟んだ敷地に格納しており、横断歩道を渡って災害出動しているため、迅速な出動に支障が出ている状況である。

これらを踏まえ、門司消防署を建替えることとしたものである。

現在の門司消防署は、門司区のほぼ中心に位置し、他の消防署所との配置バランスもよく、区の災害対応拠点として非常に効率的な配置となっている。また、出動についても、中心市街地はもちろん、門司港地区や新門司地区など、門司区全域への出動に非常に有効であり、現所在地は消防用地としては最適な立地である。

建替え新築に伴い、現所在地周辺で候補地を検討したが適地がなかったため、現所在地において、新庁舎を建設することとした。新庁舎建設中の2～3年間については、門司競輪場跡地に仮設庁舎を建設し、門司消防署の全ての機能を暫定的に移転させることとしている。

新庁舎については、耐震性能が確保され、大地震が発生しても地域の防災拠点としての機能を維持できるものとした。

また、地震や台風などの災害発生時に消防隊の対策本部として活用する「作戦室」や、消防隊員が安全・迅速に防火服を完全着装する「出動準備室」を整備し、消防機能の強化を図っている。

職員の生活スペースについては、仮眠室を個室化することなどにより、女性職員の交替制勤務への配置を可能とする。

さらに、消防車両を全て庁舎内に格納できることとなり、安全・迅速な出動が図られる。そして、車庫には全てシャッターが取り付けられ、保安面でも安心できるものとなる。

近年も豪雨災害の頻発や特殊災害の発生に加え、高齢者人口の増加による救急需要の増大など、今後も消防行政へのニーズは高まるものと予想される。

また、東日本大震災を受け、全国的に防災拠点施設の耐震化が進められており、近い将来の発生が危惧されている南海トラフ巨大地震に備える意味でも、早急な事業推進が必要である。

【対応方針案】

計画通り実施